

令和6年度松山東高校全日制入学式式辞（令和6年4月8日）

本日、四月の佳き日に、多くの御来賓の皆様の御臨席を賜り、保護者の皆様の御出席の下、令和六年度愛媛県立松山東高等学校の入学式を挙行できますことは、私たち教職員にとって、大きな喜びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんの御入学を、心から歓迎いたします。また、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

本校は、松山中学校創立から146年、前身の松山藩藩校「明教館」から数えると、一九六年の歴史があり、本校ゆかりの人物は、秋山真之、秋山好古、正岡子規、夏目漱石など、枚挙にいとまがありません。終戦後まもなく文部大臣となり、教育の民主化に努めた安倍能成氏は、正門入ってすぐ左にその胸像があり、日々、私たちを見守っています。昨年お亡くなりになったノーベル文学賞作家の大江健三郎さんも本校の出身です。多くの先輩方が地域のために尽力され、また、日本や世界を舞台に活躍しておられます。

現代のショートショート作家の第一人者で、平成18年に本校を卒業された田丸雅智さんは、現在36歳。私は、先般、その田丸さんと直接お話する機会を得ました。田丸さんは、本校で教わった先生から数学の楽しさ・すばらしさを知り、東京大学工学部に進学され、その後、作家の道へと進まれるのですが、久しぶりに母校に帰ってこられた田丸さんは、その恩師と再会され、本当に楽しそうに高校生活のことを話しておられました。

皆さんも、自分で選んだこの松山東高校での、かけがえのない出会い、かけがえのない経験を通して、自分をしっかり理解し、鍛え、他の人たちとつながって切磋琢磨し、やがて社会へと羽ばたいてほしい、そう願っています。

皆さんは、晴れて東高生になりました。が、東高生であることと、東高生であろうと努力することは違います。東高生であることに安住して、そこからの努力を怠り、成長が見られない、それでは何とももったいない、ここからが大切なのです。厳しい言い方に聞こえるかもしれませんが、難しく考えることはありません。それは、東高が、勉強だけでなく、運動や文化、芸術の面でも大いに力を発揮できる環境であり、学習や部活動、特色ある学校行事など、学校生活全体を通して、学力はもちろん、人を思いやる心や、コミュニケーション力、挑戦する力など、豊かな人間性を身に付けることができる学校だからです。

新しい環境、新しい人間関係の中では、人と意見が食い違うこともあるでしょう。そんなとき、意見の食い違う人を排除するのではなく、他者を慮りながら、皆が納得できる答えが見つかるよう、努力をしてみてください。そうした取組を通して、皆さんは成長し、豊かな人間性を持った、人から信頼される人間になるのです。

保護者の皆様、松山東高校では、高く、広く、そして豊かに、を教育活動の目標として掲げております。私たちは、本日からお子様をお預かりし、お子様が、それぞれの目標を実現するに足る、高く、広く、豊かな学力と、やがて社会のリーダーとして活躍する、高く、広く、豊かな人間性を兼ね備えた人物となって、現代社会をたくましく生き抜く力を身に付けられるよう、力を尽くしてまいります。どうか、本校の教育活動に対する御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東高生となった新入生の皆さん、改めて、御入学おめでとうございます。皆さん一人一人の人的な成長を期待して、式辞といたします。

令和6年4月8日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史